

東アジアワールドカップ予選大会を終えて

新型コロナウイルスの全国的な感染急拡大を受け、東アジア遠征に向けた諸活動には多くの制限と調整が強いられました。雇用条件の悪化、就業規則の変化、家計の急変といった不安定かつ不確実の中で選手を招集し、遠征に向けた活動を実施することに幾重の障壁がありました。その障壁を乗り越えることができたのは、あらゆる葛藤に打ち勝った選手の弛まぬ努力をはじめ、選手のご家族や選手が所属するチームの皆様の支えが根底にあったものと思います。

2022年3月12～14日にバングラデシュ人民共和国のダッカのKamal Stadiumで開催された東アジアワールドカップ予選大会は日本、バングラデシュ、インドネシア、マレーシアの4カ国により、ワールドカップ本戦への出場権(上位成績より2枠)をかけた50分フルゲーム・リーグ形式(ピッチ平均気温は32℃)により開催されました。戦績は試合順にマレーシア戦は7-0で勝利、バングラデシュ戦は8-0で勝利そしてインドネシア戦は2-0で勝利し、優勝の成績を収めるとともにワールドカップ本大会への出場権を獲得しました。改めて多くの方々から頂戴しましたご支援とご声援に心より感謝を申し上げます。

東アジア遠征への出発直前には選手1名がPCR検査にて陽性反応が出てしまいました。当該選手は、自身のやり切れない想いを抑え、全選手の安全を慮り代表団から離脱する決断をしました。遠征先の現地ではこれまでに経験したことがない文化や衛生環境の中でコンディションが優れない状態が続きましたが、当該選手の英断が全選手の奮発心に作用し共鳴が起こり適性最大限の力をピッチで出し切る選手たちの姿に、強くなるチーム、結果を出す集団としての確かな素地と潜在力の高さを感じました。

東アジア予選大会の優勝は、これまでに積み上げてきた多くの総力による累積的な力が反映された結果と捉えることが肝要です。華々しい成果は過大な自信と権威が脅かされる不安の両方をもたらすことがあります。禍の種子は得意の時に萌すことが多くあるため僅かな成功で足を取られることがないように注意する必要があります。アジアのアンプティサッカーの普及と発展は世界的にみても目覚ましい状況にあります。襟度をすすめると同時に窮苦の時を忘れず、時宜に叶う洞察を継続させていくことが重要です。

日本アンプティサッカー協会 WAFFワールドカップ2022日本代表チーム監督
前鼻啓史



WAFF WORLD CUP 2022に向けて

2022年10月1日～9日にトルコ共和国のイスタンブールにて、今大会より新たに導入された各大陸予選を勝ち抜いた24カ国(ヨーロッパ8カ国、アフリカ4カ国、西アジア3カ国、東アジア2カ国、南アメリカ4カ国、北アメリカ3カ国)が集まり、真の頂点を決めるワールドカップが開催されます。今日の国際状況を俯瞰すると多くの問題が散在しており、無事に大会スケジュールを戦い抜き、選手たちをご家族のもとへ安全に帰すために当協会の果たすべきタスクを明確にし、責任の所在の可視化していく必要があります。また国内では新型コロナの感染拡大から2年を超えたものの、未だ全国的に感染収束の目処がたたず経済的な悪影響下にあることに変わりありません。活動や遠征に伴う選手たちの費用負担を軽減するためのマネジメントに関わる問題に対しても鋭意取り組んでまいります。

今大会ではグループ予選から強豪国との激戦が予想されます。強豪国の多くは報酬制度を持ち、興業活動としてアンプティサッカーを取り組んでいることは事実です。豊富な資金とスタッフを集め、シーズン中に多くの遠征の機会を構築しています。このやり方を単に模倣や追従するようでは強豪国に勝つことはできません。結果が問われる大会でやるべきことは「強いナショナルチーム」をつくりあげることです。ただし、選手を潰すようなスタイルは決して赦されません。選手の障害レベル別の残存体力を見極め、適性最大限のパフォーマンスを追求するスタイルを確立することが重要です。

勝利するというシンプルな目標に向かってトレーニングをするのがナショナルチームです。対戦相手を想定したトレーニングは必要以上に難しくしてはいけません。玉石混合の中から本質だけを取り出す作業が明暗を分けます。本質を見極めるのは、手を抜くことではなく、やるべきステップを最高の状態に研ぎ澄まし全力を注ぐためです。複雑なものを創作したり分解したりするのではなく、気づかれていない単純なやり方を応用することは選手たちの閃きを加速させます。指導者が生み出すプロセスとコントロールはあくまでも選手の力に依存しています。本大会までは3回に及ぶ国内キャンプを予定しています。このキャンプは多くのパートナー企業様のご支援によって成り立っています。感染対策も抜かりなく行い「今、やるべきことは何か」を常に明確にし、実りあるキャンプを実施してまいります。

我々には多くの課題がありながらも「前に進んでいる」という感覚に包まれています。すべてにおいて完璧な状態を築くことは理想的ですが、その状態を作れるまでには多くの時間や労力が必要となります。またその状態が作れた時には「時すでに遅し」ということもあります。特に大会期間中はすべてを完璧にというような不合理的なプレッシャーを状況に応じてみきりをつけ、勝利までの現実的かつ合理的な最短経路を見出すことが重要になります。不完全であることを恐れず、チームの状態や対戦相手との力量を踏まえて、修正、変更そして再構築を素早く実行且つ、浸透する土壌を築きあげて本戦に臨んでまいります。